



たから研究 mini通信



発行 授業研究部会

文部科学省の指定を受けて、これからどうするのかなあと、五里霧中・義理夢中の日々を送っていますが、みなさん体だけは大事にしましょう。

授業研究部会としても、少しずつ何かしなければと思いながら、何もできない状態で2ヶ月が過ぎ去りました。ちょっとだけ時間を見つけて「たから研究（宝立小学校・学校研究の仮称）」のきっかけにでもなればという思いで、『研究 mini 通信』の発行を思いつきました。

とりあえずは一方通行で発行しますが、みなさんの投書も大歓迎します。何でもいいですからね。道徳とな～んの関係がなくてもいいし…、というか、どんなことでも道徳につながっているはずですから…。

それでは、「いやいや押しつけられやつきねー研究」を「わくわくどきどきやつたろうじゃないか！研究」に変身させるキッカケとなるか…??

『たから研究 mini 通信』の、はじまり～、はじまり～い～。

※

■「マル道」ってご存じですか。

「教育技術の法則化運動」の中から生まれた道徳教育のサークルです。今までに20冊あまりの実践記録集を出しています。その中から、ぼくのアンテナにかかった「道徳の授業づくりのポイント」になることを紹介していきます。

- ・マル道の目的…子どもにとってタメになり、子どもがホンキになる道徳授業を創出し、他者がまねできる形で広めていく

今回は『イキイキ道徳授業を創ろう』（大鐘雅勝著）より紹介します。

↑ 本書は中学での道徳実践記録集ですので、高学年に当てはまることが多いと思います。

■イキイキ道徳授業を創る定石

「テーマ、資料、導入、発問」の4つのポイントをあげています。

【ホンキになれるテーマを選ぶ】

- ・教師も生徒もホンキになれるテーマを選ぶこと。

「教師も生徒も」である。特に教師自身がホンキになれるテーマを選ぶこと。

野口芳宏氏は、『授業研究No.352』で次のように述べている（孫引）。

このような「退屈な」授業になぜなってしまうのか、と言えば、それは教師の側に「教えた」という「必然性の実感」が欠けているからではなかろうか、というのが私の思いである。教師は、自らの、この「実感」を静かにふりかえってみる必要があるのではないか。

「実感」の裏づけのない指導が迫力を持つわけがない。「実感」がある言葉は必ず人の心を打つ。

- ・そのときにぴったりのテーマを扱う。
 - ①生徒の発達段階に合っているテーマ
 - ②生徒がそのとき興味、関心を持っているテーマ
 - ③学級でそのとき必要なテーマ

【イキイキ授業を生む資料】

- ・その資料を読んで、まず教師自身が「おもしろい！」と思えるものであること。
 - ①「なるほどそうだったのか！」というおもしろさ…新しい情報
 - ・今まで当然と考えていたことに対して、疑問を投げかける新しい考えや意見
例：「思いやりのある子に育てようとしてのは失敗だった」とする若い母親の意見
「明るい性格ってどういうことなのか、明るって言うのは本当にいいことなのか？」という疑問を投げかける授業
 - ・こうした資料は、中立的な立場のものでなくてよい。むしろ過激なくらいの内容の方が生徒は賛成・反対の意見を述べやすく「イキイキ授業」にふさわしい。
 - ②「この話、いいな。」というおもしろさ…感動
 - ・事実をもとにした話
登場人物の言動について考えさせる際など、実在の人物の話なのかどうか、実際にあった話なのかどうかで生徒の考える姿勢が変わってしまう。フィクションでは「どうせ作り話なのだから…」という構えになってしまう。
 - ③資料（素材）を手に入れる方法
「天声人語のようなコラム」「読者の声で複数の意見が出ているもの」「人物のエピソードやインタビュー記事」「以上のような内容をまとめた本」「世論調査に関する記事や、それらデータを集めた本」「ひとつの事件の裏情報を知らせる雑誌などの記事」「テレビのドキュメント」「4コママンガ」
 - ④これらの素材を組み合わせ加工し「資料」に仕上げる。そして発問を考える。
 - ・資料として使うところを選ぶ…葛藤のあるところ、主張が明確にでていところ、感動を呼ぶところ、などを選ぶ。
 - ・途中で切る（または途中で空欄をつくる）…登場人物の言葉や行動のうち、これは、という物の前で切る。その部分を考えさせることで、主題に迫る。

※

この続きは次号に。

なお、感想などありましたら、編集者の方にお寄せ下さい。また、みんなに知らせたい記事などありましたら、お互い交流したいと思いますのでよろしく。

では、次号をお楽しみに…。